

24NCで本文イラストを担当しているイラストレーターの加藤アカツキさんのオフィスをお訪ねしました。ビルの最上階にある明るく見晴らしのよいお部屋でお話をうかがいました。[加藤さんが描いた24NCの6人のメインキャラクターを裏表紙で紹介しています]



「教科書の仕事と単行本や雑誌の仕事とはずいぶん違いますか？」

僕たちイラストレーターは常日頃、仕事の中で“やりたいこと”と“やらなければいけないこと”とのバランスを計りながら絵を描いています。

仕事の中には、守らなければいけない多くの条件があり、それを制約と言ってしまうのはちょっと言い過ぎかもしれませんが、とりわけこの教科書の仕事にはそうした‘制約’が他の仕事に比べて格段に多くあるように思います。

かといって、ただそれらの‘制約’どおりにイラストを描いているだけでは、今度はひどく面白味のないものができあがってしまいます。

生徒たちが3年間楽しく勉強できるように、感情移入しやすく愛されるキャラクターを造形すること、そしてページを繰った瞬間、そこで何が起きているのか知りたくなるような魅力的な画面作りをめざして、残されたあまり大きくない自由度の枠の中で何度も試行錯誤を繰り返しました。

「教科書にとってイラストはどんな意味をもっているのでしょうか？」

文章だけでさまざまな状況を説明したり、またそれを読んで理解したりするのはとても大変です。ましてやそれが慣れない英語の、しかも短い文章となればなおさらです。

僕たちは普通の会話の中でも、そうと気づかないままにボディランゲージを駆使して多くの言葉を補完していて、それが意思や情報を伝えるための有効な手助けになっています。

教科書の短文だけでは伝えきれないことも、キャラクターの表情や動きを表現したイラストを加えることによって、生徒たちが状況を把握するのを手助けしてくれるでしょう。それが教科書の中のイラストの重要な意味なのだと思います。